

第4章 観光振興の基本視点

1. 観光振興とまちづくり

(1) 観光振興の目的

「観光」とは、国・地域の「光」（優れたもの）を観るだけではなく、外に観せ（示し）、人やモノ、情報の交流を図り、国・地域の発展を促進するものです。また、受け入れ側の地域市民と観光客とが相互交流し、互いが触れ合う人間的な側面も合わせもっています。

観光が21世紀の基幹産業として期待されていますが、その理由の一つは観光客を呼び込むことで交流人口が増え、魅力的なまちづくりや文化の振興など地域の活性化を導き、市民生活の豊かさの向上にもつながる可能性があるからです。地域外からの来訪者に対してサービスを提供して対価を得ることから、地域経済の活性化に大きな役割を果たしています。

観光産業は「交通」「宿泊」「小売業」「飲食業」「サービス業」を始めとして裾野の広い多様な業種から構成され、その波及効果によって地域全体の産業の活性化にもつながります。さらには、観光を足がかりにした新規定住者の増加、地域イメージの向上、社会基盤の充実などの効果の他に、「資源の保全」、「市民協働」や「市民の地域への誇り・愛着の醸成」などの好循環を生み出します。

しかし、地域の許容量を超える過度な観光地化は交通渋滞、乱開発、環境悪化などといった問題を引き起こします。したがって、観光振興は単に来訪者の増加による産業振興を図るだけではなく、都市と地域の発展につながる戦略として捉え、都市の規模や機能などの地域特性に配慮した的確な取り組みが重要になります。

(2) 観光まちづくり

「まちづくり」の基本は、そこに住む生活者が地域を見つめ直し、捉え直すことです。その一方でこれまでの一般的な観光開発では、集客力の向上や産業振興が優先されることが多く、生活者(市民)の定住環境への影響が考慮されることは少なかったと言えます。「観光まちづくり」は、地域が主体となって、自然や文化、歴史、産業など地域のあらゆる資源を活かすことによって、交流を振興し、活力あふれるまちを実現するための活動です。地域が主体となって生活者に主眼をおいた取り組みであることが従来型の観光地づくりとの大きな違いと言えます。ここでは、地域市民の「定住環境」、観光素材となる「地域の資源」、そして「観光客の満足」の3つの要素のバランスを取りながら持続的な観光振興と地域の活性化を目指すことが重要です(図14)。

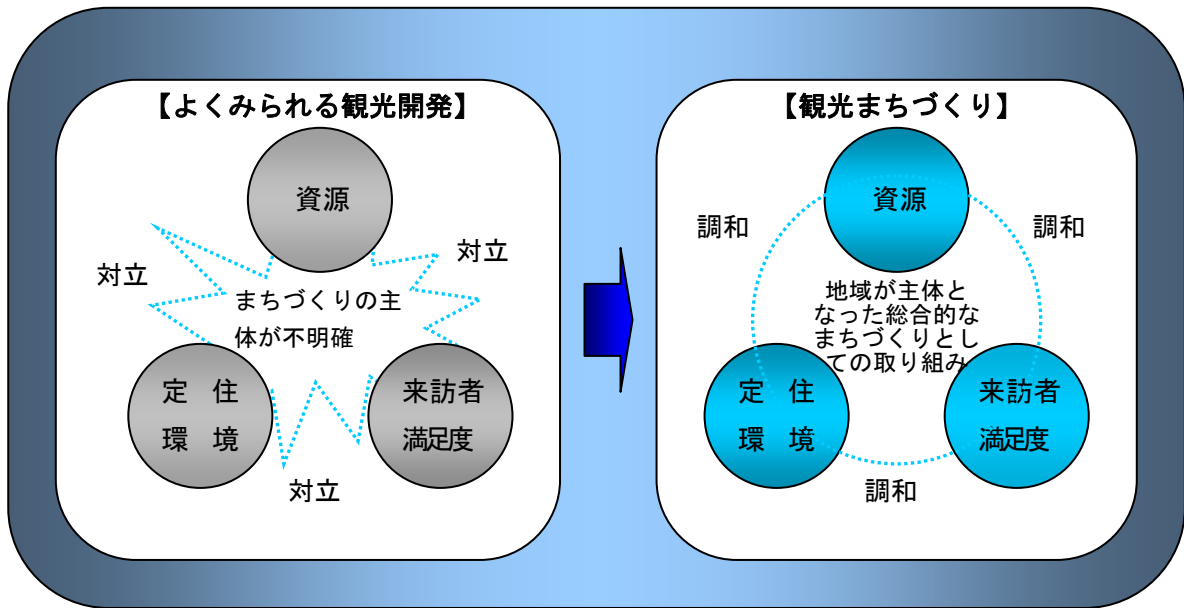


図 14 観光まちづくりの概念と定義

(財) アジア太平洋観光交流センター編『観光まちづくりガイドブック』より

2. 観光振興の基本視点

本市観光の現状分析や将来動向の分析結果などを総合的に勘案し、次の4つを基本的な視点として、観光振興を図ります。

(1) 柳川らしさの育成・発展

“白秋のふるさと”としてその名を知られる本市は、先人達の築いた独特な風土が、今なお息づいています。多くの文人達が愛し、集まったまちは、城下町の歴史が情緒あふれる深い魅力に満ちています。豊かな風土が長い年月をかけて織りなしてきた水郷の景趣には、人の感性をくすぐる何かがあるのかもしれませんが。また、有明海の幸に恵まれ、海苔をはじめとして、珍しい海産物も豊富です。(柳川市歴史探訪より)

「柳川らしさ」は、本市独自のものです。柳川全体を代表するような「柳川らしさ＝アイデンティティ」を明確にするためには、柳川の歴史、文化、風土的特徴、まち並みや建造物、産業、イベントなどを活かして、その独自性を具体的に見えるものとして示す必要があります。また、少し磨けば柳川らしさにつながる眠ったままの資源を発掘したり、磨いたり、観光振興にとって最も基礎的な活動に取り組んでいく必要があります。

(2) 全域・市民による観光まちづくり

平成17年3月に合併した本市には、川下り、中島の朝市、有明海の潮干狩り、中山の大フジ、温泉などの自然資源や各地の伝統芸能、文化財などが数多くあります。今後、新たな観光資源を発掘し、既存の観光資源と結びつける周遊ルートを設定するとともに体験メニューを開発し、統一感のある観光地づくりを展開する必要があります。そのためには市民や観光事業者、行政に携わる人々が、誇れるまちを目指して共に考え、全ての人々で創り出す取り組みが求められます。

(3) 観光情報システムの構築

観光情報システムとは、観光客に良質な観光旅行情報を提供するためのシステムです。観光行動の個性化、団体旅行から個人旅行への流れに対応し、必要なときに必要な情報をわかりやすく提供するシステムを構築することが求められており、年齢や言語の違いによる不安や不便さなどにも配慮しながら、あらゆる観光需要者に対して適切な情報を提供するシステムを構築する必要があります。

(4) 国際観光の振興

インバウンド旅行（外国人の訪日旅行）振興の重要性があちこちで聞かれるようになりました。外国人観光客の来訪促進に伴う国際観光の広がりや、国内観光と同様に地域の様々な産業への波及効果が考えられるだけではなく、産業の活性化につながることを想定されます。そして、少子高齢化の進行に伴い定住人口の増加が望めない状況で、交流人口の増加が各地域の活性化を図る上で期待されており、訪日外国人旅行者も交流人口として有望視されています。さらに、日本人との観光に対する文化的背景が異なる外国人観光客を受け入れることによって、地域が持つ魅力や文化を再認識することができるだけでなく、新たな観光資源の発見につながります。このような国際観光の推進は、外国人観光客とのコミュニケーションの機会が増え、おもてなしの向上にもつながります。